

(2016年度)

3 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は19ページ、4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、文中には一部空欄になっているところがあるので、歴史的に正しく補って読むこと。

院政期には、社会面や文化面で従来と異なった多くの変化が確認できる。具体的には、武士や名主などの登場にともない、それまでの貴族を中心に展開してきた文化とは異なった傾向のものが現れてきた。例えば、豊作を神に祈願する神事から生まれた(ア)は、芸能化が進み貴族たちにも好まれるようになったし、民間で流行していた(イ)も同様に受け入れられ、(ウ)により『梁塵秘抄』としてまとめられている。

読者に受け入れられやすい文学も次第に台頭し、この時期の著名な説話集として、源隆国が編者と考えられる(エ)も著されており、多くの(オ)を中心に、(カ)で書かれている。さらに、この時代を一層反映させるジャンルとして絵巻物があげられ、藤原隆能の筆によるとされる(キ)のほか、⁽¹⁾炎上事件を主題にした(ク)などが代表作であるが、他にも擬人化した動物や人間の仕草をユーモラスに描いた『鳥獣戯画』や、飛倉の説話などを描いた(ケ)、後世の模写本しか伝わっていないものの、この時代の視覚史料として重要な(コ)などが注目されるほか、装飾経として(サ)や(シ)がよく知られ、(シ)は武士と厳島神社との関係からも注目されている。

前代からの(ス)に由来する阿弥陀信仰は、まず装飾経などの文化財の形で⁽²⁾一層の隆盛を見せながら地方へも広まった。その様子を反映する建築としては、大分県の(セ)、福島県の(ソ)、岩手県の(タ)などが現存している。他方、役行者ゆかりの鳥取県の(チ)も、建築史上大いに注目される。

文学では、軍記物や歴史物語が社会状況を反映して登場する。代表作としては、『将門記』や『陸奥話記』があげられ、前者は平将門の乱を、⁽³⁾後者は⁽⁴⁾(ツ)を主題としていることで史料としての価値も高い。歴史物語では、⁽⁵⁾藤原氏の栄華を主題とした複数の作品のほか、藤原為経作者説が有力な(テ)も挙げねばなるまい。(テ)の成立については(ト)年ころと考えられている。

このように、院政期の文化は、単に平安時代末期の文化としてのみならず、我国の古代史から中世史への転換点において、参加者と地域の拡大をもたらし、次

代の鎌倉期の文化と並行して中世期の日本文化を形成していった基調と考える必要がある。

問1 文中の(ア)～(ト)について、それぞれ歴史的にもっとも適切なものを1つずつ選びなさい。

- (ア) ① 連歌 ② 田楽 ③ 東歌 ④ 俗謡 ⑤ 林邑楽
⑥ 万歳
- (イ) ① 今様 ② 放下 ③ 傀儡 ④ 神楽 ⑤ 旋頭歌
⑥ 和事
- (ウ) ① 平清盛 ② 源義仲 ③ 慈円 ④ 九条兼実
⑤ 崇徳上皇 ⑥ 後白河上皇
- (エ) ① 『日本霊異記』 ② 『御伽草子』 ③ 『往生要集』
④ 『沙石集』 ⑤ 『童子訓』 ⑥ 『今昔物語集』
- (オ) ① 訓戒論 ② 仏教説話 ③ 人生論 ④ 成功譚
⑤ 諸国漫遊譚 ⑥ 神道説話
- (カ) ① ひらがな ② カタカナ ③ ひらがなとカタカナ
④ 漢文 ⑤ 万葉仮名 ⑥ 和漢混淆文
- (キ) ① 『信貴山縁起絵巻』 ② 『石山寺縁起絵巻』
③ 『慕婦絵詞』 ④ 『一遍上人絵伝』
⑤ 『源氏物語絵巻』 ⑥ 『北野天神縁起絵巻』
- (ク) ① 『年中行事絵巻』 ② 『紫式部日記絵巻』
③ 『伴大納言絵巻』 ④ 『平治物語絵巻』
⑤ 『地獄草紙』 ⑥ 『法然上人絵伝』
- (ケ) ① 『信貴山縁起絵巻』 ② 『石山寺縁起絵巻』
③ 『慕婦絵詞』 ④ 『一遍上人絵伝』
⑤ 『源氏物語絵巻』 ⑥ 『北野天神縁起絵巻』

- (コ) ① 『粉河寺縁起絵巻』 ② 『山王靈驗記絵巻』
 ③ 『年中行事絵巻』 ④ 『春日権現験記』
 ⑤ 『男衾三郎絵巻』 ⑥ 『後三年合戦絵巻』
- (サ) ① 『平家納経』 ② 『扇面古写経』
 ③ 『知恩院阿弥陀二十五菩薩来迎図』 ④ 『一遍上人絵伝』
 ⑤ 『金峰山経塚出土経筒』 ⑥ 『十二類絵巻』
- (シ) ① 『平家納経』 ② 『扇面古写経』
 ③ 『知恩院阿弥陀二十五菩薩来迎図』 ④ 『一遍上人絵伝』
 ⑤ 『金峰山経塚出土経筒』 ⑥ 『十二類絵巻』
- (ス) ① 修験道 ② 密教 ③ 浄土教 ④ 禅宗
 ⑤ 時宗 ⑥ 法華宗
- (セ) ① 富貴寺大堂 ② 白水阿弥陀堂 ③ 中尊寺金色堂
 ④ 三仏寺投入堂 ⑤ 清水寺本堂 ⑥ 延暦寺根本中堂
- (ソ) ① 富貴寺大堂 ② 白水阿弥陀堂 ③ 中尊寺金色堂
 ④ 三仏寺投入堂 ⑤ 清水寺本堂 ⑥ 延暦寺根本中堂
- (タ) ① 富貴寺大堂 ② 白水阿弥陀堂 ③ 中尊寺金色堂
 ④ 三仏寺投入堂 ⑤ 清水寺本堂 ⑥ 延暦寺根本中堂
- (チ) ① 富貴寺大堂 ② 白水阿弥陀堂 ③ 中尊寺金色堂
 ④ 三仏寺投入堂 ⑤ 清水寺本堂 ⑥ 延暦寺根本中堂
- (ツ) ① 藤原純友の乱 ② 平忠常の乱 ③ 前九年の合戦
 ④ 後三年の合戦 ⑤ 保元の乱 ⑥ 宝治合戦
- (テ) ① 『水鏡』 ② 『吾妻鏡』 ③ 『中鏡』 ④ 『破鏡』
 ⑤ 『増鏡』 ⑥ 『今鏡』
- (ト) ① 1155 ② 1162 ③ 1170 ④ 1182 ⑤ 1185
 ⑥ 1192

問2 文中の下線部(1)～(5)について、次の問いに答えなさい。

(A) 下線部(1)の事件で、伊豆に配流された人物はだれか。次の中から1人選びなさい。

- ① 源順 ② 源高明 ③ 橘逸勢 ④ 橘広相 ⑤ 伴健岑
⑥ 伴善男

(B) 下線部(2)の時期には、極楽往生をとげた人々の伝記、いわゆる往生伝が多く著されているが、その一つ『日本往生極楽記』を書いたのはだれか。次の中から1人選びなさい。

- ① 源信 ② 三善為康 ③ 良源 ④ 慶滋保胤
⑤ 大江匡房 ⑥ 空也

(C) 下線部(3)を平定した人物はだれか。次の中から1人選びなさい。

- ① 源経基 ② 平高望 ③ 小野好古 ④ 平貞盛
⑤ 源満仲 ⑥ 藤原泰衡

(D) 下線部(4)を平定した人物はだれか。次の中から1人選びなさい。

- ① 源頼義 ② 安倍頼時 ③ 平忠常 ④ 源頼信
⑤ 平国香 ⑥ 藤原秀郷

(E) 下線部(5)として、具体的にどのような作品が考えられるか。次の中から1つ選びなさい。

- ① 『大鏡』『竹取物語』など ② 『水鏡』『平治物語』など
③ 『今昔物語』『伊勢物語』など ④ 『栄花物語』『大鏡』など
⑤ 『今昔物語』『宇治拾遺物語』など ⑥ 『沙石集』『水鏡』など

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

15世紀、将軍権力の弱体化にともなって有力守護家や将軍家にあいついで内紛がおこった。1450(宝徳2)年、山城守護の畠山持国は、実子の(ア)に所領を譲り、畠山持富の子で持国の養子となっていた(イ)と対立する。(イ)は細川(ウ)を頼り、(ア)は追放されるが、山名(エ)が(ア)を支持し、(ア)は家督と守護職奪回を狙い続けた。

斯波義健は嗣子がなく、一族の(オ)が家督を継承したものの、(オ)は重臣と対立し、幕府の命にも反して追放され、幕府は渋川氏の子(カ)を入れて斯波家をつがせたので、以後(オ)・(カ)の対立が始まり、(オ)は(ウ)の支持を得、一方(カ)は(エ)を頼った。

1465(寛正6)年、将軍義政に実子(キ)が生まれると、それまで義政の継嗣に定められていた義政の弟(ク)と(キ)の母日野富子が対立し、当初は(ク)が(ウ)を、富子が(エ)を頼ったため、細川・山名両氏の対立は深刻化し、1467(応仁元)年、ついに応仁の乱が始まる。主な守護大名が細川方(東軍)と山名方(西軍)の両軍に分かれて戦い、主戦場となった京都は戦火に焼かれた。同年5月、東軍が将軍邸を占拠して義政・(キ)をかついだため、翌年11月、西軍は(ク)を誘い、東西二つの幕府が成立した。乱は、(ウ)・(エ)の死後も続いたが、1477(文明9)年、両軍の間に和議が結ばれ、一応終止符が打たれる。しかし、内紛はおさまらなかつた。

1489(延徳元)年、将軍(キ)が早世すると、(ウ)の子(ケ)は義政の兄弟(コ)の子(のち(サ))の将軍擁立を図ったが、畠山(イ)らは(ク)の子(のち(シ))を擁立して将軍とした。そこで(ケ)は1493(明応2)年、重臣らに(イ)を攻め殺させ、将軍(シ)を廃し、(サ)を将軍とした。しかし、(ケ)は近臣の内部抗争や摂津・丹波の国人の不満などを抱えており、1507(永正4)年、自邸で家臣らに殺害された。このような権力争いが続き、幕府の実権は管領家細川氏からその家臣三好長慶に移り、さらに長慶の家臣松永久秀へと移っていく。

関東では、享徳の乱を機に、鎌倉公方が足利持氏の子(ス)の古河公方と幕

府から派遣された(コ)の堀越公方とに分裂し、関東管領上杉氏も山内・扇谷の両上杉家に分かれて争っていた。この混乱に乗じて15世紀末、京都から下ってきた伊勢長氏(盛時)は、堀越公方を滅ぼして伊豆を奪い、ついで相模に進出して、子の北条(セ)・孫の(ソ)の時には、北条氏は関東の大半を支配する戦国大名となった。

中部地方では、16世紀半ばに越後の守護上杉氏の守護代であった(タ)氏に景虎が出て、関東管領上杉氏をついで謙信と名乗り、甲斐から信濃に領国を拡張した武田晴信(信玄)と、しばしば北信濃の川中島などで戦った。

中国地方では、大内義隆が権勢を誇っていたが、1551(天文20)年、義隆は重臣の(チ)氏によって自害に追い込まれ、大内氏は(チ)氏に実権を奪われる。しかし、安芸の国人から成長していた毛利元就が、1555年の厳島の戦いで(チ)氏を討ち、毛利氏は中国地方最大の勢力となる。

九州では、豊後・筑後などの守護から戦国大名に成長した(ツ)氏が、豊前・筑前・肥前・肥後、さらに日向などにも勢力を伸ばした。また、薩摩・大隅などの守護から成長した(テ)氏も戦国大名に成長し、(ツ)氏を圧迫した。肥前の国人から成長した(ト)氏も(ツ)氏・(テ)氏と九州を三分する勢力に成長したが、のちに(テ)氏に敗れて衰退し、一族の鍋島氏にとってかわられる。

戦国大名は、新しく服属させた国人たちや地侍を家臣に組み入れ、彼らの収入を、銭に換算した(ナ)という基準で統一的に把握し、その地位・収入を保障するかわりに、彼らに(ナ)にみあった一定の軍役を負担させた。

戦国大名の検地は、家臣である領主にその支配地の面積・収入額などを自己申告させるものと、名主にその耕作地の面積・収入額を自己申告させるものがあった。このような方式による検地を(ニ)検地という。

戦国大名のなかには領国支配の基本法である分国法(家法)^(a)を制定するものもあった。また、城下町を中心に領国を一つのまとまりを持った経済圏とするため、領国内の交通制度を整え、商業取引の円滑化にも努力した。城下には、主な家臣の宿所が設営され、商工業者も集住して、しだいに領国の政治・経済・文化の中心としての城下町^(b)が形成されていった。

問1 文中の空欄(ア)～(ソ)に入る適切な人名を、次の中から1つずつ
選びなさい。なお、同一人物の改名、出家による法号は問わない。

- ① 政氏 ② 持豊 ③ 義廉 ④ 義就 ⑤ 氏満 ⑥ 義晴
⑦ 義尚 ⑧ 成氏 ⑨ 政豊 ⑩ 氏綱 ⑪ 義澄 ⑫ 義植
⑬ 政元 ⑭ 義敏 ⑮ 義視 ⑯ 勝元 ⑰ 氏康 ⑱ 氏政
⑲ 政長 ⑳ 政知

問2 文中の空欄(タ)～(ト)に入る適切な名字を、次の中から1つずつ
選びなさい。

- ① 相良 ② 尼子 ③ 島津 ④ 宇喜多 ⑤ 有馬
⑥ 大友 ⑦ 吉川 ⑧ 陶 ⑨ 長尾 ⑩ 小早川
⑪ 龍造寺 ⑫ 菊池

問3 文中の空欄(ナ)・(ニ)に入る適切な語句を、次の中から1つずつ
選びなさい。

- ① 隠田 ② 石高 ③ 太閤 ④ 天正 ⑤ 指出 ⑥ 石直
⑦ 寄子 ⑧ 貫高 ⑨ 寄親 ⑩ 銭納

問4 下線部(a)「分国法」について、以下の問いに答えなさい。

- (1) つぎの条文は何という分国法に含まれる条文か。下の①～⑥の中から1
つ選んで答えなさい。

〔条文〕

一 駿・遠兩國の輩、或はわたくしとして他国より嫁をとり、或は婿にと
り、娘をつかはす事、自今以後停止し畢ぬ。

- ① 甲州法度之次第 ② 朝倉孝景条々 ③ 早雲寺殿廿一カ条
④ 塵芥集 ⑤ 結城氏新法度 ⑥ 今川仮名目録

(2) 分国法に含まれる法理の1つに、喧嘩両成敗法がある。次のうち、喧嘩両成敗法について説明した文章として、不適切な(あきらかな誤りを含んでいる)文章はどれか。1つ選びなさい。

- ① 「喧嘩の事、是非に及ばず成敗を加ふべし」というように、理非にかかわらず、当事者双方を処罰することを原則とした。
- ② 『今川仮名目録』『甲州法度之次第』など、いくつかの分国法(家法)に喧嘩両成敗を規定した条文がみられる。
- ③ 家臣同士が紛争を自分たちの実力による私闘で解決することを禁止し、大名の裁定で決着させようとするものであった。
- ④ 中世に一般的であった私闘・私戦を、戦国大名が公権力(公儀)として裁定することは、戦国大名が領国内の司法権を掌握しようとしていたことを示している。
- ⑤ この法理は中世法史上画期的であったが、戦国時代の分国法に特有の法理で、近世の裁判には全く継承されなかった。

問5 下線部(b)「城下町」について、次のうち、16世紀に城下町ではなかったのはどこか。1つ選びなさい。

- ① 相模の小田原 ② 薩摩の鹿児島 ③ 越後の春日山
- ④ 周防の山口 ⑤ 駿河の府中 ⑥ 豊後の府内
- ⑦ 伊勢の桑名

3 次の問いに答えなさい。

問Ⅰ 江戸時代の儒学者に関する文章Ⅰ～Ⅲを読んで、あとの問いに答えなさい。

- Ⅰ (ア)に仕え、徳川吉宗に用いられた彼は、古文辞学を唱え、中国の古典にさかのぼって儒学の本質をさぐるとともに、現実の政治にも多くの提言をおこなった。(イ)に護国塾を開いて自説を講義し門人を育て、そして参勤交代の弊害の打破、武士の土着論などを説いた(ウ)など多くの著作を残した。優れた門人も輩出し、(エ)を著して彼の経世論を発展させた太宰春台等がいる。
- Ⅱ 彼は、相国寺の禅僧から還俗し、朝鮮の姜沆から朱子学を学んだ(オ)の門人で、師の推薦によって徳川家康に仕えることになった。彼はその後三代の將軍の侍講となり、法令、外交文書などの起草にも従事した。幕府に歴史書の編纂を命じられ、子の(カ)のころに『本朝通鑑』が完成した。彼の家は、(カ)、孫の(キ)と、代々儒者として幕府に仕え、学問と教育とをになった。彼は1630年上野忍ヶ岡に家塾を開いたが、これは(ク)の時に湯島昌平坂に移転し、大成殿を設けて(ケ)をまつた。その後(コ)に寛政異学の禁が行われるなかで、施設・制度が整備され、1797年には幕府の直轄の学問所になった。
- Ⅲ 彼は、松永尺五に学んだ(サ)の門人である。(サ)は前田綱紀に招かれ、また(ク)の侍講をつとめながら、彼をはじめとして、『六論衍義大意』『赤穂義人録』などを著した(シ)、対馬藩で朝鮮との外交に腐心した(ス)等多くの優れた門人を育てた。彼は甲府藩主(セ)の侍講となり、1709年(セ)が將軍職に就くと幕政に深く関与した。彼には多くの著作があるが、捕えられた(ソ)宣教師シドッチの尋問をもとにした『西洋紀聞』などは洋学の先駆けとしてよく知られている。

(1) 空欄(ア)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 保科正之 ② 徳川光圀 ③ 間部詮房 ④ 田沼意次
⑤ 柳沢吉保 ⑥ 堀田正俊

(2) 空欄(イ)に当てはまるもっとも適切な地名は次のうちどれか。1つ
選びなさい。

- ① 大坂 ② 京都 ③ 江戸 ④ 水戸 ⑤ 和歌山
⑥ 岡山

(3) 空欄(ウ)に当てはまるもっとも適切な書名は次のうちどれか。1つ
選びなさい。

- ① 『翁問答』 ② 『慎思録』 ③ 『経済録』 ④ 『政談』
⑤ 『制度通』 ⑥ 『経済要録』

(4) 空欄(エ)に当てはまるもっとも適切な書名は次のうちどれか。1つ
選びなさい。

- ① 『翁問答』 ② 『慎思録』 ③ 『経済録』 ④ 『政談』
⑤ 『制度通』 ⑥ 『経済要録』

(5) 空欄(オ)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 鈴木正三 ② 藤原家隆 ③ 鈴木牧之 ④ 卜部兼好
⑤ 土橋友直 ⑥ 藤原惺窩

(6) 空欄(カ)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 鶯峰 ② 道春 ③ 復斎 ④ 鳳岡 ⑤ 述斎
⑥ 綱齋

(7) 空欄(キ)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 鶯峰 ② 道春 ③ 復齋 ④ 鳳岡 ⑤ 述齋
⑥ 綱齋

(8) 空欄(ク)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 徳川家綱 ② 徳川家宣 ③ 徳川家光 ④ 徳川家継
⑤ 徳川秀忠 ⑥ 徳川綱吉

(9) 空欄(ケ)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 徳川家康 ② 孔子 ③ 朱子 ④ 神武天皇
⑤ 王仁 ⑥ 菅原道真

(10) 空欄(コ)に当てはまるもっとも適切な年代は次のうちいつか。1つ
選びなさい。

- ① 1770年 ② 1775年 ③ 1780年 ④ 1785年 ⑤ 1790年
⑥ 1795年

(11) 空欄(サ)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 木下順庵 ② 佐藤一斎 ③ 野中兼山 ④ 山崎闇斎
⑤ 古賀精里 ⑥ 佐藤信淵

(12) 空欄(シ)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 細井平洲 ② 谷時中 ③ 雨森芳洲 ④ 室鳩巢
⑤ 柴野栗山 ⑥ 尾藤二洲

(13) 空欄(ス)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 細井平洲 ② 谷時中 ③ 雨森芳洲 ④ 室鳩巢
⑤ 柴野栗山 ⑥ 尾藤二洲

(14) 空欄(セ)に当てはまるもっとも適切な人物は次のうち誰か。1人選
びなさい。

- ① 徳川家綱 ② 徳川綱豊 ③ 徳川家治 ④ 徳川家継
⑤ 徳川家重 ⑥ 徳川綱吉

(15) 空欄(ソ)に当てはまるもっとも適切な語は次のうちどれか。1つ選
びなさい。

- ① イタリア人 ② ドイツ人 ③ フランス人
④ スペイン人 ⑤ ポルトガル人 ⑥ オランダ人

問2 あとの文章(1)~(10)を読み、それぞれのアとイの正誤の組み合わせとして適
切なものを、次の①~④から1つずつ選びなさい。

- ① アー正 イー正 ② アー正 イー誤
③ アー誤 イー正 ④ アー誤 イー誤

(1) ア 徳川吉宗は、浮浪人や無宿人を収容して仕事につかせるために、小
石川に人足寄場を設けた。

イ 松平定信は、乗捐令を出して、札差に旗本や御家人の債権を放棄ま
たは軽減させ、その救済をはかった。

(2) ア 田沼意次は工藤平助の『赤蝦夷風説考』の影響を受けて、俵物の産地
である蝦夷地の開拓計画をたてた。

イ 松前藩には、清と交易したアイヌによって樺太経由で中国産の蝦夷
錦がもたらされていた。

- (3) ア 17世紀半ば振袖火事ともよばれる明暦の大火が起こり、江戸城をはじめ市街の大半を焼きつくした。
- イ 明暦の大火の翌年に町火消が創設され、若年寄の支配のもと火消人足を指揮した。
- (4) ア 元禄年間、幕府は荻原重秀の意見を取り入れ、貨幣の改鑄をおこない、その出目によって財政を補った。
- イ 正徳年間、幕府は新井白石の意見を取り入れ、長崎貿易を推進、拡大するための海舶互市新例を出した。
- (5) ア 幕府は、最上徳内や近藤重蔵に千島列島を調査させ、18世紀末に東蝦夷を直轄地とした。
- イ 幕府は、19世紀はじめに蝦夷全地域を直轄地とし、間宮林蔵に樺太を調査させた。
- (6) ア 琉球は17世紀後半に薩摩の侵攻を受けて以降、那覇に常駐した薩摩藩の役人に監視された。
- イ 明治政府は、薩摩藩と清に両属していた琉球に対し、19世紀後半にいったん琉球藩とし、さらに廃藩置県を強行して沖縄県を設置した。
- (7) ア 徳川吉宗は、従来の法令や判決を集成した公事方御定書を編集し、法制の整備を進めた。
- イ 徳川秀忠は、旗本と御家人を統制するための基本法として、武家諸法度を定めた。
- (8) ア 宝永年間、富士山が大噴火し、駿河・相模などで降灰により大きな被害を出した。
- イ 享保年間、浅間山が大噴火して甚大な被害を出し、享保の飢饉の一因となった。
- (9) ア 17世紀はじめ、幕府は豪商の角倉了以に大堰川・富士川・高瀬川などの水路を開発させた。
- イ 17世紀なかば、江戸の商人河村瑞賢は、琵琶湖を経て大坂にいたる西廻り航路と、安房を経て江戸にいたる東廻り航路を開発した。

- (10) ア 松平定信は、江戸に流入した下層民を帰農させ、農村の再建をはかる人返しの法を実施した。
- イ 徳川吉宗は、物価の引き下げをはかるため株仲間解散令を出したが、市場の混乱を招いた。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「大正デモクラシー」のもとでいったんは定着した日本の政党政治であったが、1932年に首相が暗殺されると、第二次世界大戦前における政党内閣は途絶えることになった。

1940年になると日中戦争遂行のため、(あ)首相の下で、ヒトラーが率いるドイツのナチス^(a)のような一党の強力な新党を日本でも結成しようという動きが高まった。各政党は競うように解党し、同年10月に結成された(ア)に合流したのである。

その後、政党政治が復活するのは日本が第二次世界大戦で敗北し、連合国の占領下^(b)におかれてからのことである。1945年10月には戦前には非合法であった(イ)が合法的な政党として活動を再開した。翌11月には戦前の無産政党が合同した(ウ)^(c)、旧政友会系で戦時中の選挙で政府の支援を受けない非推薦候補であった議員が中心の(エ)、戦時中の選挙で推薦候補であった旧政友会、旧民政党の議員が中心の(オ)などが結成された。

1946年4月には戦争終結後、初の衆議院議員選挙が行われ、(エ)が466議席中、140議席あまりを獲得して第一党となった。しかし(エ)総裁の(い)は組閣直前に公職追放となり、同党は代わりに戦前以来の親米英派の外交官であった(う)を総裁とし、(オ)と連立して第一次(う)内閣を組閣した。またこの選挙ははじめて女性参政権が実現された選挙でもあり、39人の女性代議士が誕生した。

やがて(カ)の発効によって日本が独立を回復すると、公職追放されていた(い)や太平洋戦争開戦時の商工相であり戦犯被疑者となっていた(え)な

ど、戦前以来の政治家が(キ)を結成し、(ウ)首相と激しい権力闘争が展開された。1954年にはついに(イ)らが(ウ)を辞任に追い込み、(イ)内閣が誕生すると、日本国憲法は占領軍主導のものだとして「自主憲法制定」を唱えた。

一方で(カ)をめぐって左右に分裂していた(ウ)はそれぞれ選挙の度に議席を増やし、1955年10月には再統一して改憲阻止に必要な3分の1以上の議席を確保した。依然として対立していた(イ)等と(ウ)系の勢力であったが、当時の世界的冷戦下にあつて(ウ)の勢力拡大を懸念するアメリカの圧力もあり、1955年11月に「保守合同」として合流し、(ク)を発足させた。(ク)、(ウ)という二大政党の発足によって「55年体制」が成立したのである。二大政党とはいいいながら、(ウ)の議席は、常に(ク)には及ばなかった。しかし改憲を阻止する3分の1以上の議席を確保し続けたことで、(ク)が党是に掲げた「自主憲法制定」が実現することもなかったのである。

その後、首相に就任した(エ)は、(ケ)の改定を行うが広範な反対に直面し、改定実現と引き換えに退陣した。しかし、(ク)はそこで政権を失うことなく、政権を引き継いだ(オ)首相は、「所得倍増」を掲げて高度経済成長の実現に力を入れ、それにつづく(カ)首相は、日韓国交正常化や(コ)を実現し、(ク)の黄金期を築くことになる。(ク)が政権与党の座を失うのは1993年であり、それは(ク)の内紛によって(キ)内閣に対する不信任案が可決されて衆議院議員選挙が実施され、その結果、(ク)が過半数を割り込んで、(ク)を除く8党派連立で(ク)内閣が成立したことによるものであった。ここに「55年体制」は終わりを告げたのである。

問1 文中の空欄(あ)～(く)に当てはまる人名を、次から1人ずつ選びなさい。

- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| ① 芦田 均 | ② 鳩山一郎 | ③ 細川護熙 | ④ 幣原喜重郎 |
| ⑤ 石橋湛山 | ⑥ 田中角栄 | ⑦ 近衛文磨 | ⑧ 宮沢喜一 |
| ⑨ 佐藤栄作 | ⑩ 東条英機 | ⑪ 池田勇人 | ⑫ 岸 信介 |
| ⑬ 吉田 茂 | | | |

問2 文中の空欄(ア)～(コ)に当てはまるもっとも適切な語句を、次から1つずつ選びなさい。

- | | | |
|-------------|----------------|-----------|
| ① 日本社会党 | ② 立憲自由党 | ③ 国民民衆党 |
| ④ 日本民主党 | ⑤ ポツダム宣言 | ⑥ 日米防衛指針 |
| ⑦ 国民精神総動員協会 | ⑧ 立憲改進黨 | ⑨ 愛国報国会 |
| ⑩ ヤルタ協定 | ⑪ 海軍 | ⑫ 日本共産党 |
| ⑬ 立憲政友会 | ⑭ 大政翼賛会 | ⑮ 日朝国交正常化 |
| ⑯ 陸軍 | ⑰ 日本自由党 | ⑱ 日本進歩党 |
| ⑲ 政友本党 | ⑳ 日米安全保障条約 | ㉑ 自由民主党 |
| ㉒ 日本労農党 | ㉓ サンフランシスコ平和条約 | |
| ㉔ 日米安保再定義 | ㉕ 日中国交正常化 | ㉖ 沖縄返還 |
| ㉗ 日ソ国交正常化 | | |

問3 文中の下線部(a)～(e)に関する次の問いに答えなさい。

(1) 下線部(a)についての説明として誤っているものを、次の中から2つ選びなさい。

- ① 1937年7月7日、北京郊外の盧溝橋で発生した日中両軍の武力衝突から始まった。
- ② 日本が正式に対中宣戦布告をしたことがきっかけとなって、中国では国民党と共産党の提携が実現した。
- ③ 日本軍は1937年末に、中華民国の首都である南京を陥落させた際に、多数の中国人を暴行・殺害した。
- ④ 日本側は、国民党副総裁の汪兆銘を重慶から脱出させ、上海に新政権を樹立させた。
- ⑤ 日中戦争は全面戦争に拡大し、戦争遂行のために日本国内では1938年4月に国家総動員法が公布された。

(2) 下線部(b)の時期について説明した文章として正しいものを、次の中から1つ選びなさい。

- ① 1950年に朝鮮戦争が勃発すると、日本国内では戦乱が日本に波及するとの懸念から経済活動はますます混乱し、停滞した。
- ② 在日米軍が朝鮮戦争に出動したことから、GHQの指令によって自衛隊が創設された。
- ③ 国務省顧問のドッジの施策などによって増税と均衡予算が生まれ、デフレの進行に歯止めがかけられた。
- ④ 共産党の影響下にあった全日本産業別労働組合会議に対し、GHQの後押しで日本労働組合総評議会が結成された。

(3) 下線部(c)について、(ウ)から選出された首相を次の中から1人選びなさい。

- ① 羽田 孜 ② 土井たか子 ③ 西尾末広 ④ 河野洋平
- ⑤ 宇野宗佑 ⑥ 片山 哲

(4) 下線部(d)についての説明として誤っているものを、次の中から2つ選びなさい。

- ① 1960年代に入ると、公明党、民社党など中道勢力と呼ばれる政党が現れ、勢力を伸ばした。
- ② 55年体制の下、国政での政権交代はなかったものの、東京都、大阪府、京都府などで革新系の知事が誕生し、1970年代には環境や福祉問題が焦点となった。
- ③ 1950年に結成された日本労働組合総評議会(総評)は、55年体制下で革新陣営を積極的に支援した。
- ④ 55年体制終焉後に成立した政権は、いずれも連立政権であった。
- ⑤ 55年体制下で政権交代がなかったことが政治の腐敗を招いたとして、8党派連立政権下で中選挙区比例代表並立制が導入された。

(5) 下線部(e)についての説明として誤っているものを、次の中から1つ選びなさい。

- ① 政府は食糧管理制度のもと、補助金を投入して生産者米価を毎年、引き上げたが、国内の需要は旺盛で、1970年代になっても米の生産増加が課題であった。
- ② 日本は1964年には、資本の自由化を義務づけられる経済協力開発機構(OECD)に加盟した。
- ③ 1960年に国民所得倍増計画が閣議決定され、翌年には農業基本法、1962年には新産業都市建設促進法が公布された。
- ④ この時期の日本企業は、急速な技術革新を実現しながら生産性を向上させ、それに伴う設備投資がさらなる設備投資をよぶという状態であった。
- ⑤ 石炭から石油へのエネルギー転換に伴い、太平洋ベルト地帯に巨大な石油化学コンビナートが建設された。

